

神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

The Meanings of "Just" and its Stresses

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 1974-12-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 河野, 守夫, Kohno, Morio メールアドレス: 所属:
URL	https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/2234

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



‘Just’の意味とStress

河野守夫

(1)

英語のstress (実際には呼気圧の強さにpitch, sonorityやdurationが関連したprominence)は、一方では発話に一定のrhythmを与えると同時に、他方では文字面から見た配語法の不備を補なったり、そこから帰納される意味を補強したりする。もっとも、前者について厳格な等時間間隔のリズムが現われるのはリストを読み上げたり、物を一つ一つ数えたりする場合か、特別の修辭的效果をねらった説教や演説などの一部に見られるだけで、等時性はかなり乱れるのが普通である。従って後者の機能と競合する場合は概して後者が優先するけれども、次のような場合もある。

たとえば完全自動詞と連結詞的役割の不完全自動詞を比べると概して前者の方に強い強勢が置かれ (You lōok at it / Arthur looked wīse)⁽¹⁾、これは They looked long のような文で動詞のあとの語が補語か副詞かの判定に役立つ。ところがこの原則は両用法の文を対比して発話するときには確かに守られるが、その他の場合にはrhythmや発話速度の影響でしばしば破られる (Lōok at my hānds / I loōked quīte unrēal)⁽²⁾。

また次は「副詞には概して強強勢が置かれるが、前置詞は無強勢」という原則 (They mārched ōn to the cīty hāll / It's on the dēsk) をリズム

(1) D. Abercrombie: *English Phonetic Texts*, Faber & Faber, 1964

(2) L. A. Hill: *Stress & Intonation, Step by Step, Companion* Oxford University Press, 1965

ムが破った例である。You should néver móve the pápers ón my dèsk.
(この規則的なリズムは話者のいらだった気持を表わしている)⁽³⁾

さてrhythmからの規制よりも有力に(というより、以下の諸条件を満した上にrhythmが成り立っていると見る方が正しいが) prominenceのあり方を規定するものにどんなものがあるだろうか。

一番よく指摘されるのが「AでなくBが」という意味を内包した contrastive stressで、時には次のような単語に固有のアクセントの位置にも優先する大きな力を持っている。

I'll not give the bird any. I'll keep all of it for mýself.⁽⁴⁾
(一ニという再帰代名詞のstress patternを破った例)

I sáid she was a Frénch tèacher, not a frèsh tèacher. (a Frénch tèacher (フランス語の教師) / a Frénch tèacher (フランス人の教師)の意味の区別を示すstressのあり方に優先した例)⁽⁵⁾

ところでquite, indeedなど一部の副詞には「全く」「大変」という強い意味から「かなり」「まあまあ」「多分」という弱い意味までであるが、その意味の程度とprominenceの程度は一致する。そして「なるほど…だが」という意味の場合は概してH. E. Palmerのいわゆるsnake型の抑揚で発音され、逆に顕著度が大きくなる。⁽⁶⁾この種の現象もrhythmの影響を受けないで成立するものと思われる。

それではjustのように意味が強から弱へgradableに並んでいる側面と、⁽⁷⁾time when adjunctの意味機能にみられるように、そうでない側面が同居し

(3) R. Quirk et al. *A Grammar of Contemporary English*, Longman, 1972 P.1043

(4) 拙稿「For oneselfの意味とStress」*Corpus* 4号, (六甲英語学研究会)

(5) Quirk et al. 前掲書 P.1042

(6) 拙稿「多義語とStress」【文学語学論集】(関西学院大学),

「Wellの意味とStress」*Corpus* 3号(六甲英語学研究会),

「Indeedの意味とStress」【論攷17号】(関西学院大学),

「For oneselfの意味とStress」*Corpus* 4号(六甲英語学研究会) 参照。

(7) Quirk et al. 前掲書 P.483

ている場合は意味と発音の関係はどうなり、どこまでが rhythm に関係なく成立する現象なのだろうか。

(2)

‘just’ の意味を Webster 3版は次のように示している。代表的な例文と共に掲げる。

- (1) Exactly, Precisely: *just* the words we often have to look up in a dictionary.
- (2A) precisely at the time referred to or implied: It was *just* ten when he came in.
- (2B) but a very short time ago, very recently: The book has *just* been published.
- (3) (British) on the point of being—often used with *on*: It was now *just* on eight o'clock.
- (4A) by a very small margin: Barely: I could *just* see the very high weathercock of the church.
- (4B) in immediate proximity: Immediately, Directly: *just* across from the campus.
- (5) Only, Merely, Simply: I'm *just* your interpreter.
- (6A) chiefly dial.: Indeed, Truly: Couldn't he play the violin, *just*.
- (6B) Quite, Very, Absolutely, Really—used as an intensive: That's *just* ducky.

さらに *Advanced Learner's Dictionary of Current English* は (5) の意味に、(A)他の副詞に添えてほとんど意味のない用法 (*just* about tall enough), (B)親しい間柄の colloquial style で特に命令形の前に添えて注意を促がす用法, (C) 同じ条件の下で逆に後続の語句の意味を弱める用法

を追加している。我国の辞書にもこれを載せているものが多い。

ところで Quirk et al.: *A Grammar of Contemporary English* は上述の (1) や (5) のような意味機能を focusing adjunct と規定している。これは否定詞 not の機能 (He didn't die happily. = He died but not happily.) に似て、どの語に焦点を当て、いるかは intonation で示される。代表的な focusing adjunct の only で示すと、⁽⁸⁾

John only phoned Mary today. (= John did nothing else with respect to Mary but phoned her.)

John only phoned Mary today. (= John phoned Mary today but nobody else.)

John only phoned Mary today. (= John phoned Mary today but not at any other time.)

ただ not と違うところは、only 同様、just がなくても intonation だけでほぼ同じ意味を示し得ることがある点である。(Wait just a minute = Wait a minute.) これは just が強い意味だけでなく、非常に弱い、無色に近い意味も担い得る可能性があることを示しており、その場合、上の only のような型線をとるのではないかと推察される。

なお (3) と (4 A, B) は (1) の用法に準じるものと思われる。

(2A) と (2B) はどちらも Quirk のいわゆる time when adjunct で、前者がある特定の一時点 (at this very moment) を、後者がある基準時から少し隔たった一時点 (a very short time ago) を示す。(6A) と (6B) は intensifier として使われている。

(3)

本稿末に掲げた 9 種類の phonetic transcripts から just を含む 142 の例文を抽出し、context から判断した just の意味を Webster の記述に従って分類

(8) Quirk et al. 前掲書 P. 433

し、それと prominence との関係調べた。表記法は、抑揚については4が最高で、°は主型線の開始点を、-はpitch levelが互いに連続していることを示す。強勢は最強の´から順次˘と弱まり、無記号が最も弱い。もっとも、テキストによって表記の仕方に粗密の差がある。

(1) の意味区分

これに属するものは28例あったが、そのうち26例には最強勢符号がついており、更に抑揚の主型線の開始点が重なっているものもあって、そのprominenceは大きいと判断される。⁽⁹⁾ 代表例を一つあげる。

Holmes (turning to her and speaking emphatically): Precisely!
2- °3 -1

That's Júst what I did⁽¹⁰⁾ — Swíndled you óut of it!
1- °3- -1 1-°2-1 °2 -1 -1 °3- -1 (Pike)

この意味区分中9例は(2A)の意味区分として処理すべきかも知れないが、focusing adjunctとしての性格を備えているのでSODやCODにならってここに入れたもので、9例中8例までが大きな顕著度を示していた。(残る1例は後述のjust nowの場合である。)

Júst thén the óld rat caught síght of young Árthur. (Abercrombie)

さてこの(1)の意味区分で顕著度の小さい例は次のとおりである。

Mány Américans are offénded by the nórmal intonátions of Brítish Énglish, just as Brítishers are óften húrt by Américan intonations. (Abercrombie)

しかし、これは(1)の意味区分として扱うよりも前述のALDの(A)の意味に近い。事実、この文を強勢表記なしで2人の英国人に読ませたところ、justをexactlyの意味にとった者はそこに強勢を置き、downtonerとしてのalmostに近い意味またはmeaninglessと考えた者は無強勢で読んだ。次の2つのjust(now)の強勢の有無も同じように説明できる。

(9) prominenceの大小は英語のprosodicな現象のうちで最も聞き分け易いものの一つである。

(10) 節全体をfocusにするときは概して節の末尾にfocusを置く。

"It says áll frúit is pléntiful júst nów." "Plúms âren't." (O'Connor)
 2- °3- °3- °3- -1- -1 °3-1-2 -1-1

"Mr. Smith's rather búsy just nów." "Can I sée him if I côme
 2- °2- 2- °3-1 -1 2- °3- °3-

bâck lâter?" (O'Connor)
 °3-1

前者は果実はちょうど今がさかりだという知らせを喜びや驚きを以って伝えているのに対し、後者は「今忙しい」と事務的に述べるという感情の違いを示しているとも言えよう。なお第4節の「2Aの意味」区分参照。

(2A) の意味区分

全部で15例あったが前述のjust nowの場合を別にすれば、すべて prominence は最大と考えられる。代表例を1つあげる。

"Sórry. I'm júst ôff óut." "Well, would this áfternoon be pòssible?"
 °3-1-2 2- °3- 3- °3-1 2-2 2- °3-1-2 -3- -3

(O'Connor)

(2B) の意味区分

完了形の文にふつうに使われるものだが、全部で36例見つかり、顕著度の大きいものが32例あった。代表例をあげる。

She had júst finished scrúbbing the flóor and pólishing the bráss, and was nów engaged in láying líttle páths of páper in cáse any chance cústomer should come in óver níght and sóil the bóards before Sún-day. (Armstrong) (おかみさんは丁度床と真ちゅう用器を磨き終り、通りがかりのお客さんが夜のうちに立ち寄って日曜にならないうちに板の間を汚さないよう紙を敷いて通路をこしらえているところだった)

ところが強勢や抑揚の核の置かれないものが4例あった。うち2例を示す。

Góod évening, Antônio. Cãn we háve that tâble by the sêa? My fríend's just arríved from Êngland, and I wânt to shôw him wâtt you can ôffer, so that he can becôme ône of your rêgular cústomers.

(Hill-2) (外でフクロウが鳴いた。それが合図であるかのように窓辺の黒い人影がひらりと音もなく部屋を横切り、片隅のベッドの前を通り過ぎた。そのすぐ向う側にドアがあった。それは少し開いていた。) 他の1例略。

(5) の意味区分

これに該当する42例のうち分けは *prominence* が最少か、それに近いものが36例で、他の意味区分とは逆になっている。しかし、一方では最大と判断されるものが6例あって、この用法の複雑さを示している。顕著度の最少の例は次のとおり。

Wè just gòt a smâttering of it. (Bowman) (それ(シェクスピア)に
2- °3- -1- -1

ついて中途半端な知識しか持っていなかった。)

We pût the fân on, but the âir from them just rôasted us.
2- °3- °1-2 -2 2- °3- °3- 1- -1

If we touched a wall, it made us jump! We could have fried eggs on the walls, if the eggs could have stuck! (Hill-1) (扇風機をつけたが熱風で灼かれるだけだった。壁にさわればとび上るほど熱かった。もし卵を壁にはりつけることができるならそこで目玉焼ができたろう。)

次のように弱い強勢が置かれるものも顕著度は小さいと思われる。

“Yèah it’s jùst twò miles from our còttage.” “Mhm, right at the
2- °4- -1
end of forty-five.” (Bowman)

次は(1)の意味区分のところでふれたALDの(A)すなわち *just* + 副詞の用法で、全部で3例あり、顕著度はすべて小さい。

“You’ll have to make it yourself.” “Just hów, if I may âsk?”
2- °2-1 1- °1-1

(O’Connor)

次は *just* + 命令形の例で6例中2例が顕著度が小さく、4例が大きい。小さいものの代表例は次のとおり。

“What shall I do with her letter?” “Just hánd them tó her.”
 $\frac{1-}{1-} \frac{2-1}{-1-1}$ (O'Connor)

次は大きいものの代表例である。

(ズボンを盗んだ疑いで係争中の男が無罪の判決を受ける。ところが裁判終了後に弁護士がもう自由の身だから退廷してよいと言っても、法廷を出ようとしな。[君は何という馬鹿なのだ]という弁護士に答えて) “Júst côme hére a mômment, plêase, sir,” said the mân, “and lêt me whísper in your éar. — I can’t go till all the witnesses against me have left the court.... Because... I’ve got them(= the trousers) on.” (Jones)

この相違は「ちょっと」という意味をそのまま単純に用いた場合と、裏の意味すなわち、表面的には軽い表現を使ってかえって相手に強く訴えるという効果を狙った一種の understatement との相違と⁽¹¹⁾考えられる。そして前者の場合には弱く、後者の場合は強く発音されるのである。

次の場合は第1強勢でなく、第2強勢だが、この比較的強い強勢の存在理由も同様に考えることができる。

Hére’s our boat! Júst Jûmp ín, and we’ll sóon be óff. (Hill-2)

この用法は当然、命令文以外の構文にも見出される。

“Where are you going?” “Júst to pôst a lêtter.”
 $\frac{3-}{-1-} \frac{-1-}{-1-2}$ (O'Connor)

ここでは、相手の質問に表面的には譲歩しながら内面の大きな自信のほどを示す fall-rise 型の型線が用いられている。⁽¹²⁾他に類例が1つあった。

次の2つの just のうち最初は単純な only の意味、あとはむしろ反対の意味で、第3強勢だがその高い pitch から判断して prominence はかなり強いと思われる。なおこれは家族同士のなまの会話で、言いよどみの箇所がそのまま、記録されている。

(11) 小西友七「現代英語の文法と語法」大修館P. 16参照

(12) 拙稿「多義語と Stress」[Indeedの意味と Stress] 参照。

"He réally gèts the .feél òf / òf this just slíghtly sùbstándard Êng-
 2- °4- -2- °3- -2 2- °3- °2-
lish." (問題の書物を調べ、全く標準以下であることがわかる) "Jùst slíght-
 -1 °3- °2-
ly sùbstándard." (Bowman)
 °1- -1

アクセントのある語のたびにピッチが下って行き、最後に2—1型の核を持つこの型線は、O'Connor & Arnoldによれば断言的な重々しい感じを伝えるが、時として上例のようにいらだち (impatience) や不満 (disapproval) を示すという。⁽¹³⁾ 次の(6A)の意味区分に見られる understatement の just の構文には多用される。

(6A) の意味区分

この意味区分も上述の控え目表現の進んだものと考えられる。用例は全部で5つあり、抑揚はいずれも上例の漸次下降の low-fall 型すなわち Palmer のいわゆる cascade 型⁽¹⁴⁾をとっている。

"I made rather a mess of it." "I should júst think you díd!"
 3- °3- °3- °2-1 (O'Connor)
 (「失敗してしまった」「実際、何てことをしたんだ」)

また次のようにしばしば否定疑問文の形をとり、肯定の答えを要求して感嘆文に似た意味合いを持つ。

"He's two hours late again." "Ísn't he júst the sórt of pèrson to
 °3- °3- °3- °2-
dríve you mād?" (O'Connor) (「あの人はまた2時間遅れます」「何ていら
 °3- °2- 1

いらさせる人なんだろう。」)

また特殊動詞の定形に low-fall の核がくると感動性が高まる。⁽¹⁵⁾

(13) *Intonation of Colloquial English*, P.37

(14) *A Grammar of Spoken English*, Heffer & Sons, P.16

(15) *Intonation of Colloquial English*, P.35

“What a cold boy!” “Isn’t it júst!” (O’Connor)
 $\overset{\circ}{2}-1 \quad -1$

(6 B) の意味区分

全部で12例あったが、すべて大きい prominence がおかれている。

If a piece of wríttén músíc dōesn’t attáin this énd with a réasonable approxímátion to corréctness, it is úseless, and might júst as well nót exist at áll. (Abercrombie) (もし楽譜がかなり正確に実際の音に移し変えられないなら、無用のものになる。全く存在しない方がましである。)

“I júst dón’t wánt to síng.” “But you promised you would.” (O’Connor)
 $2-\overset{\circ}{2}-\overset{\circ}{2}-\overset{\circ}{3}-\quad -1$

(4)

本稿末の12の音声教材から用例 117 を選び、ピッチ・インディケイター(日本電子測器 P I — 3 A) と電磁オシログラフ(横河電機 type 2901) を連動して just を含む 1 つの rhythm 単位内の各音節の stress (この場合は intensity), pitch, duration¹⁶⁾ を測定した。また大学生 20~40 人に language laboratory を用いて聞かせ単語毎に顕著度をたずねた。

(1) の意味区分

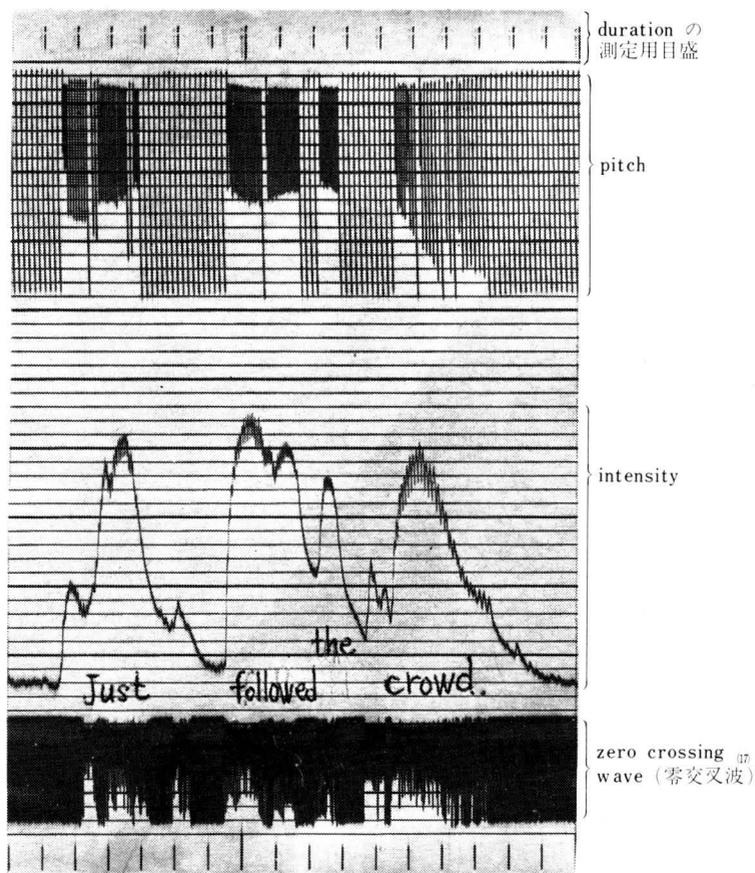
全部で22例あったが、すべて大きな顕著度を持っていた。代表例を 1 つあげる。

19 (3.2)	16.5 (3.3)	12.5 (3)	12.5 (3)	5.5 (1)	8.5 (3.2)	18.5 (4.3)	12.3 (1.5)	13 (1)	17 (1.6)	13.5 (2.1)	6 (2.8)	6.5 (4.1)
Sally, this model seems to be just what you are looking for.												
$\overset{\circ}{3}-$	$-2-$	$-3-$	$-3-$	$-2-$	$\overset{\circ}{3}-$	$-2-$	$-2-$	$-2-$	$\overset{\circ}{3}$	$\overset{\circ}{3}$	-4	-4

(Cortina) [1 = 28人]

2 段に書いた数字のうち、上段は器械分析で得た intensity の測定値、下段の () 内は duration の値を示す。下線の下に数字は器械が示した波形を参考にし何度もテープレコーダーを聞いて決定した pitch を表わしている。文

¹⁶⁾ 音と音の切れ目の正確な判定は不可能な場合が多いので、特に length の数値は大体の傾向を示すものに過ぎない。



尾の () は出典，そのあとの [1 = 28人] は，この文 (節) を聞いて just の顕著度が他の語と比較して 1 番大きいと 28 人の被験者全員が判定したことを示している。

次は一見この意味区分のようだが，実は後続の語句の意味を柔らげる働きをしており，(5) の意味区分に近い。顕著度も落ちている。

“Do you want it short or just¹⁸⁾ trimmed?” “Not too short.” “Very

17) 音色の近似的識別に役立つ。

good. How's that?" "Just right, thank you." (Linguaphone 2) [1 =
 $\frac{15.5 \quad 22 \quad 8 \quad 13}{(3.4) \quad (3.7) \quad (2.5) \quad (3.4)}$
 $\frac{2- \quad ^\circ 3-3 \quad 2- \quad ^\circ 2-3}{}$

3人; 2 = 23人; 3 = 6人] (床屋での会話で「まあよろしい」の意)

(2A) の意味区分

11例あったが、前節の phonetic transcripts からの分析と違って、顕著度
 が大きいのは3つだけであとは小さい。大きいものの代表例は次のとおり。

I should have liked to order a new overcoat as well — my old

one is nearly worn out — $\frac{14 \quad 22 \quad 21.5 \quad 20.5 \quad 16.5 \quad 14 \quad 21.5 \quad 7.5}{(1) \quad (2.3) \quad (2.8) \quad (1.7)(1.9) \quad (1) \quad (2.5) \quad (2.2)}$
 $\frac{2- \quad ^\circ 3- \quad -2- \quad ^\circ 3-2 \quad -2- \quad ^\circ 1--1}{}$
 but just now I can't afford it. (Lingua-

phone 2) [1 = 14人; 2 = 8人; 3 = 3人]

小さいものの代表例は次のとおり。

$\frac{12 \quad 17 \quad 15.5 \quad 14 \quad 14 \quad 14 \quad 10.7 \quad 13 \quad 8 \quad 11.5 \quad 16.5 \quad 11 \quad 11.5 \quad 14.5 \quad 11.8}{(2.2) \quad (2.8) \quad (3.9) \quad (3.4) \quad (2.1) \quad (1.6) \quad (1.6) \quad (2) \quad (0.9) \quad (1.5) \quad (2.4) \quad (2.6) \quad (1.9) \quad (3) \quad (2.8)}$
 $\frac{I \text{ don't know whether we can get to New Orleans at just that}}{2- \quad ^\circ 3- \quad ^\circ 3-1- \quad -2- \quad ^\circ 3- \quad -2- \quad ^\circ 3- \quad -2-}$

13.5
 (5.1)
 time. (Cortina) [1 = 2人; 2 = 3人; 3 = 6人; 4 = 15人]
 $\frac{^\circ 3-1}{}$

次の2例はほぼ同じ意味内容なのに、intensity, pitch それに prominence
 にかなりの差があるのは rhythm の関係によると思われる。

$\frac{12 \quad 10.5 \quad 11.5 \quad 10 \quad 8.5 \quad 8 \quad 10 \quad 12.5 \quad 13.5 \quad 8.5 \quad 13.5 \quad 12 \quad 7.5}{(2.2) \quad (1.3) \quad (2.5) \quad (1.5) \quad (1.6) \quad (1.9) \quad (1.8) \quad (1.7) \quad (2.8) \quad (0.5) \quad (2.1) \quad (2.4) \quad 2.6}$
 $\frac{One \text{ of the bathers is just running in from the sea to his}}{^\circ 3- \quad -2- \quad ^\circ 3- \quad -2- \quad ^\circ 3- \quad -2- \quad -2- \quad ^\circ 3- \quad -2-}$

$\frac{9}{(3.7)}$
 tent. (Linguaphone 1) [1 = 5人; 2 = 6人; 3 = 5人; 4 = 7人]
 $\frac{^\circ 3-1}{}$

(10) この just も (5) の意味区分で顕著度は小さい。 $\frac{18 \quad 20.5 \quad 15 \quad 24.5 \quad 18 \quad 20.5 \quad 17.5}{(1.7) \quad (1.5) \quad (1) \quad (3.5) \quad (1.5) \quad (2.5) \quad (5)}$
 $\frac{Do \text{ you want it short or just trimmed?}}{2- \quad ^\circ 3- \quad -2- \quad ^\circ 3-1}$
 (2 = 19人; 3 = 10人; 4 = 5人)

22 17.5 13 13 12 10 19.5 17 12.5 11.5 14 12 16 9.5 9 11.5
 (1.5) (1.2) (1.2) (2.2) (1.9) (2) (2.9) (2.3) (1.4) (1.4) (1.8) (1.2) (1.5)(3.2) (1.7)(1.8)
One of the swimmers is just running in from the ocean to his
 °3- -2- -2- -3- -2- °3- -2- °3- 2

20 15
 (2.7) (3.9)
bathroom. (Linguaphone 2) [1 = 12人; 2 = 9人; 3 = 3人; 4 = 2人]
 °3- -1

(2 B) の意味区分

28例中、顕著度の大きいのは10例、小さいのが17例、器械分析と学生を被験者とした聴覚分析を総合しても判断に迷うものが1例あった。次は大きいものの代表例である。

17.5 17 18 19.5
 (4) (2.7) (2.2) (1.8)
 A third study by Mussen and Rutherford showed that children
 2- °3- -2-
 19 15.5 19 16 14 16 14.5 17 16.5 13 14 15
 (1) (2.4) (3.6) (3.3) (2.4) (2) (1.9) (2.1)(1)(1.9) (2.9) (4.6)
who had just seen an aggressive animal cartoon were more wil-
 °3- -2- °3- -2- -2- -3

ling to engage in destructive play. (VOA) [1 = 23人; 2 = 4人]

次は顕著度の小さい例。

13.5 16 13.5 9 12 9.5 13 10 13
 (2.1) (2.8) (1.5) (2) (2.5) (1.3) (3.4) (2.6) (3.5)
The soldiers had just arrived in France. None of them could
 2- °3- 2- °3- 2- °3- 1

speak any French, except Harry, who boasted that he knew the language very well. (Hill) [1 = 4人; 2 = 10人; 3 = 8人; 4 = 12人]

次は全く同じ context にもかかわらず互いに対称的な顕著度を示している例で、この意味区分の just は rhythm の関係で強弱どちらにでも発話される可能性があることを示している。

14.5 11.5 9 10 9.5 7.8 12 5
 (3.5) (2.1) (1.1) (3) (1) (0.8) (2.4) (3.2)
She's just arrived from the country, and she's going to stay with
 °3- -1- °3- -1

us over the week-end. (Linguaphone 1) [1 = 3人; 2 = 10人; 3 = 12人; 4 = 1人]

16 (1.6)	19.5 (2.1)	19.5 (2.9)	16.5 (2.5)	20.5 (3.9)	13.5 (1.5)	14 (1)	15.5 (2.2)	7 (2.7)
<u>She has just arrived from the country...</u> (Linguaphone 3) [1								
2-	°3-	2-	-3-	°3-	1			

=19人; 2 = 4人]

次は顕著度が強か弱か判定し難いもので、この意味区分では意味の強弱が必ずしも明確でない場合のあることを示している。

8 (1.8)	20 (2.8)	13.5 (1)	20 (4.7)	16 (1)	16 (1.5)	21 (5)	
<u>Here you see Mr. Thompson, who's just arrived from abroad,</u>							
2-	°3-	°3-					-3

having dinner with the Browns. (Linguaphone 3) [1 = 13人; 2 = 12人; 3 = 1人; 4 = 1人]

(3) の意味区分に該当する用例は見つからなかった。次節で検討する。

(4 A) の意味区分

該当するのは1例だけで、かなり強い顕著度を示している。

“A good idea, Maria, but a little too ambitious for the few hours that are left of this afternoon...Rockefeller Center is a city in itself.”

14 (3.4)	13.5 (2.2)	13 (1.1)	9.5 (1.3)	15 (3.4)	14 (1.2)	15 (2.4)	7 (1)	13 (1.2)	14 (2.4)	10 (1.3)	11 (2.4)	7 (1.5)	10 (3.2)
<u>“Well, maybe we could just go up to the observation roof on</u>													
°2-	3	-2-	°3-	-2-							°3-	-2-	2-3

the 70th floor of the RCA Building for the wonderful view of the city.(Cortina) [1 = 16人; 2 = 11人; 3 = 2人]

(4 B) の意味区分

9つの用例中、非常に小さな顕著度を持つものも無い代りに、最大のものない。代表例を1つあげる。

10.5 (2)	11.5 (3.1)	10 (3.6)	12.5 (4.2)	13.5 (2.8)	9.5 (3)	7.5 (2.7)	11.5 (2.5)	10.5 (2.7)	9.5 (3)	9 (2)	11 (3)	11 (3.7)
<u>He saw two young men fighting just outside his front door,</u>												
2-	°3-	°3-	°3-	2--2-	°3-	°3-			°3-			

but when they saw him watching them, they went round the corner of the house and continued to shout at each other there. (Hill)

[1 = 9人; 2 = 11人; 3 = 5人; 4 = 6人]

(5) の意味区分

45例中、prominenceの小さいものが38例、大きいものが7例であった。次は小さいものの例。

“What kind of magazine is this?”

15 13 12.5 13 14.5 14 11 10.5 13 10 10.5 13.5 14 13 10.7 10 12
 (1.9) (0.6) (2) (0.9) (2.4) (1.4) (1) (0.6) (2) (1.2) (4) (2.5) (1.1)(0.9)(1.4)(2.7) (3)
 °3 -2- °3- °3- °3- °3- 1

ways, ... (Conversation) [2 = 4人; 3 = 21人; 4 = 15人]
 -2-

20 16 16 16 14 14 11 13 8 16 13 16
 (1.3) (1.2) (1.8) (1.5) (1.7) (2.2) (2) (1) (2.7) (2.7) (2.3) (2.5)
 Well it just seems like there's something that should be done
 °3-2- °3-

14 10 9
 (0.9) (1.1) (4)
 at this point. (English Hour) [1 = 2人; 2 = 6人; 3 = 8人; 4 =

9人]

上記2例は非常に軽い発音で特に後の例では [dʒɪs(t)] と聞える。

ALDが示唆している命令形に添えたjustの用法は8例あり、そのうち顯著度の小さいのは4例で、いずれも意味が文字どおりのonlyか、無色に近い。

1例をあげる。

21.5 18.5 17 12 16 11 12 10.5 14 11
 (3.3) (2.7) (2.6) (1) (2.8) (1.8) (1.5) (1.4) (3) (2.4)
 Oh, just drop the ashes on the carpet. I have a servant who
 °3-2- °3- -2- °3- 2- °3-1-2

comes in and cleans three days in the week! (Hill) [1 = 3人; 2 = 10人; 3 = 9人; 4 = 10人:] (タクシーで灰皿が見当たらないので在りかを尋ねた乗客に対する運転手の答)

一方、顯著度の大きいのも4例で、いずれも「ちょっと、」という意味合いの中に「ぜひ」という強い意図を含んでいる。次例は1種の詰問的な意味合いさえ含まれている。

What are you going to do when it begins to snow? Just think, in
 °3- 3-1

three months, winter will be here, (Cortina) [1 = 28人]

次も空港に降りたった観光客のあわただしい気持ちを伝えていて、同類と考えられる。

12 10 15.5 12 12.5 13.5 12.5 8 13 8.5 9.5 10.5
 (1.7) (1.6) (3.8) (1.5) (1.8) (3.1) (4.1) (1.4) (3.2) (1.7) (1.2) (3.2)
Let me just pick up our bags and look for a taxi. (Cortina)
 2- °3- -3- -2- °3- -2- °3- -2- °2- 1

[1 = 15人; 2 = 8人; 3 = 1人; 4 = 3人]

次は副詞の前のほとんど無意味のjustで前出のALDの(A)に相当する用法で顕著度は低い。類例が他に2つあった。⁽¹⁹⁾

But we don't send programs out of the laboratory to them because,

11 17 11.5 12.5 13 9.5 13 11 10 10.5 10 11 10.5 8.5 7.8 12.5
 (1.4) (1.4) (1.7) (1.3) (1.8) (1.7) (2.6) (1) (1.4) (1.4) (1.7) (1.3) (2) (1.2) (0.6) (2.1) (3.9)
oh, the students would just soon come to the laboratory, I suppose.
 2- °3- -2- °3- -2- -2- °3- 3

(Conversation) [1 = 3人; 2 = 11人; 3 = 11人; 4 = 2人]

次は後続の副詞句の意味を弱める働きをしているもので、類例が他に2つあった。⁽²⁰⁾

(農業は金もうけに向かないのではないかと聞かれて) Oh, I dont know.

15 15.5 13 12 18.5 18 17 13 17.5 13 17.5 10.5 14.3 10.5
 (1.4) (1.5) (1.2) (1.8) (2.6) (2.7) (4.2) (2) (2.6) (3.3) (2.4) (1.5) (2.5) (2.7)
I think you can find rich men and poor men just as much in
 2- °3- -2- °3-1- -1 2-

19 10
 (2.3) (2)

farming as in any other occupation. (Linguaphone 3) [1 = 5人; °3-1

2 = 13人; 3 = 7人; 4 = 4人]

次は一見この意味区分のように見えるが、「しろうと以外の何ものでもない」「全くのしろうと」というonlyの意味を強調した場合で(1)または(6B)の意味が含まれていると考えられる。Pikeのいう下降型のslurred pre-contourにlow-fall型が接続された抑揚型線で発話されており、これは前述

(19) 第3節の「(1)の意味区分」参照。

(20) 第3節の「(1)の意味区分」参照。

の stressed syllable のたびに pitch のさがる型線と同様に断言的な意味合
 いを伝える。²¹⁾

“By the way, do you play billiards?” “Well, I do, but of course,

$$\begin{array}{cccccccc} 14 & 12.5 & 14 & 12.5 & 9 & 10 & 8 & 7.5 \\ (1.7) & (0.7) & (1.7) & (1.2) & (0.8) & (1) & (1.4) & (2.7) \end{array}$$

 I'm not a professional or champion, just an ordinary amateur and not

$$\begin{array}{cccc} \overset{\circ}{3}\backslash & - & - & \overset{\circ}{2}- -1 \end{array}$$

 a very good one at that.²²⁾ (Linguaphone 1) [1 = 13人; 2 = 5人; 3
 = 4人; 4 = 1人]

次はこの断言的な意味に「…だけれども」という意味を軽く加えた high-
 low-middle と続く fall-rise 型で発話されているが、上記と同様に考えられ
 る。²³⁾ 1種の understatement とも考えられる。

“Will you have some more chicken?” “No, thank you.” “What about

$$\begin{array}{cccc} 19 & 6 & 18 & 13 \\ (1.8) & (0.3) & (2.3) & (3) \end{array}$$

 you, Mr. Thompson?” “Yes please, just a little. It's delicious.” (Lingua-

$$\begin{array}{cc} \overset{\circ}{3}- & \overset{\circ}{3}-1-2 \end{array}$$

 phone 1) [1 = 29人] 類例が他に1つある。

もっとも、cascade 型の型線がくずれる場合もある。

$$\begin{array}{cccccccc} 14.7 & 12.5 & 13.2 & 11 & 13 & 10.2 & 9.5 & 15 & 13.2 & 14.9 \\ (1.1) & (0.6) & (1.3) & (1) & (5) & (2.1) & (3.4) & (4.2) & (3.8) & (3.6) \end{array}$$
²⁴⁾
It'll be enough to read just this book for the preparation of

$$\begin{array}{cccccc} 2- & \overset{\circ}{3}- & -2- & \overset{\circ}{3}- & -2- & \overset{\circ}{2}- 1 \end{array}$$

 the test. [1 = 33人; 2 = 1人]

If we want to consider the effects of the programs children see,

$$\begin{array}{cccccccccccc} 17.5 & 17 & 14.5 & 10.5 & 10 & 9 & 7 & 8.7 & 10.5 & 8.7 & 10 & 12 & 3.5 & 9 & 10 & 5 \\ (1) & (1.6) & (1.8) & (0.7) & (2.7) & (1.6) & (1.7) & (2.3) & (3.1) & (2.9) & (1.0) & (3.6) & (3.9) & (2.3) & (3.2) & (2.7) \end{array}$$

it is evident that we cannot consider just the content of the

$$\begin{array}{cccccccc} 2- & \overset{\circ}{3}- & -2- & \overset{\circ}{3}- & -2- & \overset{\circ}{3}- & -2- & \overset{\circ}{3}- -2 \end{array}$$

 so-called “children's” programs. [1 = 20人, 2 = 13人, 3 = 1人]²⁵⁾

21) *The Intonation of American English*, University of Michigan Press, P.68, P.70

22) 抑揚型線の表記法はK. L. Pike: 前掲書p.68による。

23) 前節「(5)の意味区分」の just to post a letter. の型線参照。

24) もっとも just 以下では cascade 型。

25) 以上の2例は米人に特に録音してもらったもの。

他に類例が1つあるがいずれも顕著度は高い。

(6 A) の意味区分

用例は次の1つだけで上述の下降型の型線で発話されている。顕著度はかなり大きい。

I can see the English coast already, can you?" $\frac{13}{(4.2)} \quad \frac{10}{(3.5)}$ "Yes, just." (Linguaphone 1)
 $\frac{\circ}{3-1} \quad \frac{\circ}{3-1}$

(6 B) の意味区分

(5) の意味区分で述べたもの以外は該当例なし。

(4)

以上の考察で十分な数の用例が得られなかった(3) (4 A) (6 A) (6 B) の各意味区分について、辞書やT. Woodの著書から用例を選び、それを合計4人の英米人に録音してもらい、前節と同じ処置をして意味と発音の関係を調べた。

(3) の意味区分

4つの用例を3人の英国人に別個に録音してもらったが、どの informant も just に最大の顕著度を与えている。

$\frac{10.5}{(1.4)} \quad \frac{12}{(2.1)} \quad \frac{11}{(3.4)} \quad \frac{11.5}{(2.8)} \quad \frac{11}{(2.7)} \quad \frac{9.5}{(1.1)} \quad \frac{7.5}{(5.5)}$
It is just on twelve o'clock. [1 = 24人; 2 = 2人]
 $\frac{2-}{\circ} \quad \frac{\circ}{3-} \quad \frac{-2-}{\circ} \quad \frac{\circ}{3-1}$

(4 A) の意味区分

9例を英国人2人、米国人1人に読んでもらったが、only を伴った場合²⁶を除いてすべて大きい prominence を持っている。

$\frac{12}{(2.1)} \quad \frac{11}{(4.2)} \quad \frac{12.8}{(5)} \quad \frac{11.2}{(5.5)} \quad \frac{8.5}{(2.7)} \quad \frac{8.1}{(1.5)} \quad \frac{11}{(1.1)} \quad \frac{6}{(3)}$
It is just short of the record. [1 = 24人]
 $\frac{2-}{\circ} \quad \frac{\circ}{3-} \quad \frac{-2-}{\circ} \quad \frac{-1-}{\circ} \quad \frac{-2-}{\circ} \quad \frac{-1}{\circ}$

ところが only を伴った場合は意味が分散されるためか、英国人は2人とも

26) 英国人の発音で判定。

顯著度が落ちる。

13.5 12 16.5 9 12 8.5 7 10 10.5
 (1.5) (3.1) (2.2)(2.2) (3.2) (1.6) (3.2) (0.8) (5.8)
I was only just in time for school. [1 = 4 人; 2 = 23 人; 3 =

7 人; 4 = 2 人]

(6 A) の意味区分

この語法に親しい 2 人の英国人は 7 例全部を cascade 型,すなわち強勢音節ごとに pitch のさがる stepping head+low fall 型か,下降型の slurred pre-contour + low fall 型の型線で発音した。duration (特に文尾に置かれたとき)は異常に長くなる傾向がある。intensity は概して強いが, pitch がそれに伴わないため必ずしも prominence が大きいとは限らない。

9.5 11.5 11.5 10 7 6.5 6.5
 (2.4) (2.4) (3) (2.1) (1.4) (2) (2.7)
Won't I just give it to him! [1 = 11 人; 2 = 19 人; 3 = 9 人; 4

= 1 人]

次は特殊動詞の定形に抑揚の核がきている。

12.5 6 6.2
 (2.8) (2.2) (5.6)
 "Do you like beer?" "Don't I just." [1 = 3 人; 2 = 28 人; 3 = 9 人]

上の 2 例を他の英国人は just に非常に長い duration を与えて読み,聴覚分析では just の prominence は最大になっている。

just が文尾に来てその前に pause が置かれるときは, この強調的で断言的な意味合いを持つ型線は just にだけ置かれることがある。

9.5 10.5 7 12 4 7.5
 (2) (1.3) (2.2)(5.4) (2.8) (6.4)
 I tried a master, but he confused me, just. [1 = 8 人; 2 = 24 人;

3 = 7 人; 4 = 1 人]

(6 B) の意味区分

4 例について英米人各 1 人ずつの発音はどれも最大の prominence を just に置いており, 6 A にみられた特徴的な抑揚型線は必ずしも見られない。

代表例を1つあげる。

11 10.7 10.3 9.5 12 11 10 7.5
(3) (2) (3.6) (3.1) (4.2) (3) (2.4) (4.5)
The weather is just glorious. [1=24人]
2- °3- 1-2- °3- °2- -1

(5)

以上各節で紹介した調査をまとめてみよう。

(1) (3) (4 A) (6 B) の意味区分では常に大きな prominence を保って発音されるが(ただし、(4 A) で just の前に only がきた場合などには例外もある)、(2 A) (2 B) では「今」「丁度」; 「たった今」など時の概念を強調する場合に強く発音されるほかは、その顕著度は rhythm などの影響を受けて変る可能性がある。(4 B) は中程度の顕著度で発話されることが多い。(5) の意味区分の prominence は概して弱いが、1種の控え目表現として裏に「ぜひ」とか「全く」などの強い意味合いを含む場合は強く発話されるか(特に just + 命令文によく見られる)、漸次下降型の intonation 型線で発話される。ALD が指摘している意味区分で言うなら (A) (C) は弱く、(B) の場合は強く発話されると見てよい。徐々に降る cascade 型の抑揚型線が典型的に現われるのは (6 A) の意味区分で、否定疑問文にこれが用いられると感嘆的になる。その時の顕著度は大きい場合も小さい場合もあり得る。

なお本稿は本学の「現代と国際環境」プロジェクトの1つ「音声科学と外国語教育研究」の一環をなすものである。研究に当って有益な御示唆を頂いた小西友七先生と関西外大の Sister Eva F. Cereghino、貴重な文献を貸与された本学の高原脩氏に心から御礼申し上げたい。

資料として利用した Phonetic Transcripts.

() 内は本稿で用いた略称を示す。

a) K. L. Pike: *The Intonation of American English*, Ann Arbor, University of Michigan Press, 1945 (Pike)

- b) R. Kingdom: *English Intonation Practice*, London, Longmans, 1958
- c) J. D. O'Connor & G. F. Arnold: *Intonation of Colloquial English*, London, Longmans, 1961 (O'Connor)
- d) L. E. Armstrong & I. C. Ward: *A Handbook of English Intonation*, Cambridge, Heffer, 1963 (Armstrong)
- e) D. Abercrombie: *English Phonetic Texts*, London, Faber & Faber, 1964 (Abercrombie)
- f) L. A. Hill: *Stress & Intonation, Step by Step, Workbook*, London, Oxford University Press, 1965 (Hill - 1)
- g) L. A. Hill: *Stress & Intonation, Step by Step, Companion*, London, Oxford University Press, 1965 (Hill - 2)
- h) E. Bowman: *The Minor and Fragmentary Sentences of a Corpus of Spoken English*, Bloomington, Indiana University, 1966 (Bowman)
- i) D. Jones: *Phonetic Readings in English*, Heidelberg, Carl Winter, 1967 (Jones)

以上のうち h) はシカゴ近郊のアメリカ人の家庭での会話を録音し表記したもの。

資料として利用した Audio-Lingual Materials.

- a) *Linguaphone, English Course* (Linguaphone 1)
- b) *Linguaphone, American English Course*, (Linguaphone 2)
- c) O. M. Wilson: "What is the American University" *The Voice of America Forum Lectures, 1968* (VOA)
- d) E. Maccoby: "The Effects of Television on Children" *The Voice of America Forum Lectures, 1968* (VOA)
- e) "Language and Linguistics" *The Voice of America Forum*

Lectures, 1968 (VOA)

f) L. A. Hill: *Elementary Stories for Reproduction*, London, 1969
(Hill)

g) L. A. Hill: *Intermediate Stories for Reproduction*, London, 1970
(Hill)

h) L. A. Hill: *Advanced Stories for Reproduction*, London, 1968
(Hill)

i) *Corina Method, American English*, 3rd edition, 1969 (Cortina)

j) *Linguaphone, American English Course*, revised edition, 1971
(Linguaphone 3)

k) カリフォルニア大学 (バークレー) 教授と筆者との対話, 1972年米国で録音 (Conversation)

l) English Hour, 米国人の disk Jockeysの会話, NHK, 1974年5月録音 (English Hour)